

第7章 河川空間の利用状況

7-1 河川の利用状況

六角川と流域の関わりは古く、江戸時代以前から水運の利用が活発で、その沿川には数多くの港が宿場町として栄えた。特に、米や石炭等の輸送に関しては動脈的な役割を果たし、ヨシ原越しに白帆を張ってゆっくり進む船の姿は、白石平野の風物詩でもあった。現在、六角川筋では舟運のための河港は見られないが、河口に位置する住ノ江は漁港として利用されている。

平成18年度に実施した河川空間利用実態調査によると、六角川水系の年間利用者総数は、推定で約5万人である。流域内人口からみた年間平均利用回数は、約0.4回/人である。利用形態別では散策が54.7%と最も多く、次いで水遊びが31.9%と続き両者で約87%を占める。釣りは10.5%、スポーツは2.9%となっている。利用場所別では堤防が37.9%と最も多く、次いで水際の31.7%、両者で約70%を占める。高水敷と水面については、19.8%と10.7%となっている。総利用者数においては、平成15年度と比べ春季休日の利用者が減少した他は、総利用者数の変動はほぼ同じである。利用形態別に見ると散策の利用が減り、水遊びの利用が多くなっている。

六角川水系の中・上流部は、多様な生物の生息・生育場や良好な自然景観を呈しているため散策が多い。下流部から河口にかけては、有明海から遡上堆積したガタ土や連続するヨシ原により河道内に容易に近づける場所が少ないが、河口部の干潟体験施設周辺は比較的多くの人々に利用されている。

表 7-1 年間河川空間利用状況

区分	項目	年間推計値(千人)		利用状況の割合	
		平成15年度	平成18年度	平成15年度	平成18年度
利用形態別	スポーツ	0.6	1.4	散策等 (65.6%)	スポーツ (0.8%)
	釣り	13.1	5.1	水遊び (17.2%)	釣り (16.4%)
	水遊び	13.7	15.5	水遊び (31.9%)	釣り (10.5%)
	散策等	52.3	26.6	堤防 (56.1%)	水面 (2.5%)
	合計	79.7	48.6	高水敷 (10.3%)	水際 (31.1%)
利用場所別	水面	2.0	5.2	堤防 (37.9%)	水面 (10.7%)
	水際	24.8	15.4	高水敷 (19.8%)	水際 (31.7%)
	高水敷	8.2	9.6		
	堤防	44.7	18.4		
	合計	79.7	48.6		

(出典:「河川水辺の国勢調査」)

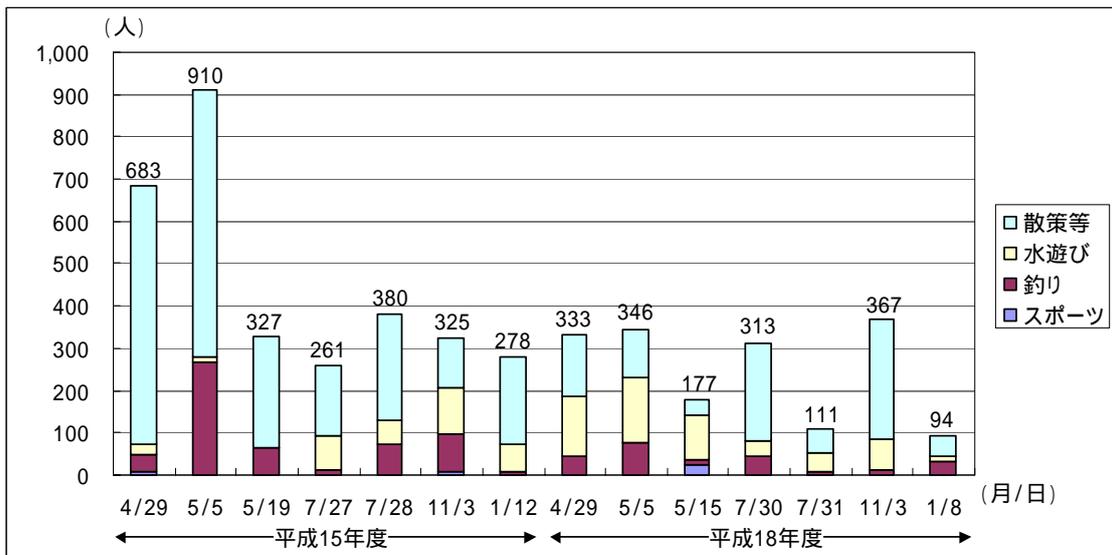


図 7-1 各調査日の利用者数



散策



釣り



水(ガタ)遊び



自然観察

7-2 河川敷の利用状況

高水敷は、本支川の中・上流部に存在するが、目立った利用は行われていない。河川利用施設は、六角川に干潟体験施設や高橋自然観察園が存在する。

河川利用は上流から下流まで散策が主であり、六角川が地域住民の憩いの場となっている。また、六角川下流部の白石町、大町町では精霊流しが行われ、地域の伝統行事の場として六角川の河川空間が利用されている。



図 7-2 六角川の河川利用施設